

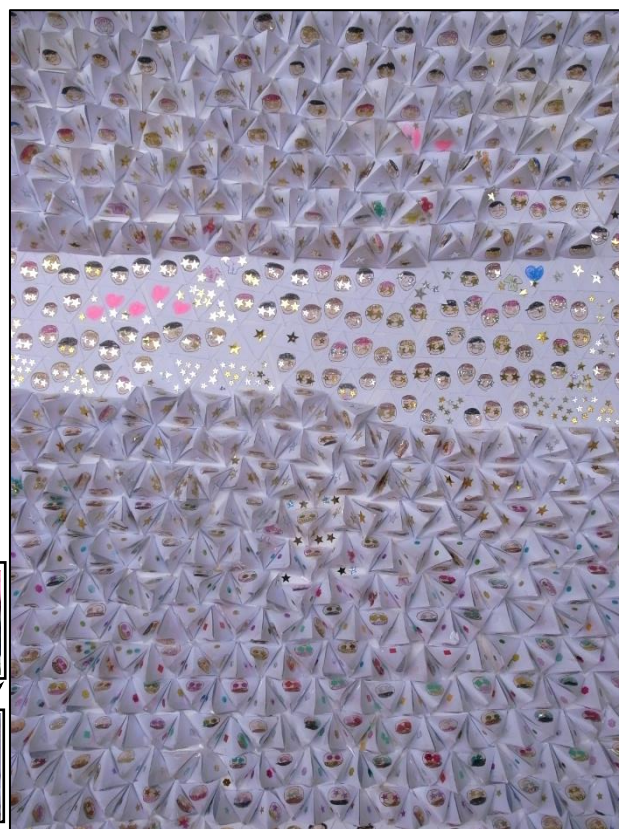
# こころ

令和4年(2022)・12月  
編集発行 富山県教育委員会



「ジャニーズツムツム」

中学校(小矢部市)



「ジャニーズプリミッド」

## 巻頭言「調和化という考え方」

富山県総合教育センター 所長 亀永 辰之

音楽の表現方法の一つに和音がある。この和音は実に奥が深い。例えば鍵盤楽器で弾く和音が平均的なものとするれば、より純正な和音を表現しようするには、ある音は音程を高め、ある音は音程を低めといった具合に、個々の音が相互に調和する必要があるのだ。また、和音の中には不協和音というものもある。不協和音という言葉は、不安定でまとまりがない状況の例えとして音楽以外の場面でも用いられる。ところがある音楽教師から「不協和音の存在によって音楽はキラッと輝いたり、推進力を感じさせてくれたりもする。大切な表現方法だ」と教えてもらった。こうした音楽表現の考え方は、共生社会を実現する上で様々な課題と向かい合うときのヒントになると感じている。社会や組織の構成員がみな同じ音、つまり単一の価値観に収れんしようとする「標準化」の考え方ではなく、多様性を尊重し、相互に作用し合い、全体として心地よく響き合うことを追求する「調和化」の考え方が共生社会の考え方としてはしっくりくると思ったからだ。

さて、私が教員として採用され最初に赴任したのは養護学校であった。初めは経験のなさから、障害のある児童生徒とどう関わればよいか

不安を感じたものだ。しかし、先輩の先生方と共に子どもたちと関わっていく中で、大切なことを沢山学ばせてもらった。その一つが「教員の目線から子どもを理解するだけでなく、子どもの目線がどう見えていて、どう感じているのかといった視点をもつ」ということである。これは、その後の教員人生の中で児童生徒との関係のみならず、教職員や保護者との関係においても一貫して大切にしてきたことだ。中には、障害や特性によって意思疎通がままならず、児童生徒の視点に立った見え方や感じ方を推し量ることが困難な場合もあったが、それでも推し量ろうとすることで、おのずと自身の言動にも変化が起きていると感じたものだ。これはまさに、相互作用による調和化のプロセスであったのではなからうかと思っている。

私たち教育関係者は、児童生徒の成長に少なからず影響を与える存在である。まずは私たち自身が多様性を肯定的にとらえ、いかに調和化を図っていくべきかといった姿勢で教育実践に臨むことが大切だと考えている。それは地道で継続的な取り組みであるが、共生社会実現への着実な道のりではないだろうか。教員の役割の大きさを改めて感じている。

## 主体的に取り組み自己肯定感を育む活動の工夫 ～レクリエーション大会の企画運営を通して～

高岡市の中学校

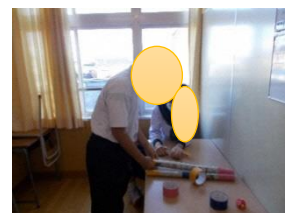
### 1 はじめに

本校の自閉症・情緒障害特別支援学級には、1年生と3年生が在籍している。生徒たちは、自分の言動に自信がもてず、集団での活動に消極的である。また、学校生活では、周りの人に援助してもらったり指示を待って行動することが多く、自分たちが誰かのために行動する経験や自分で考え、主体的に活動する経験が少ない。そこで、主体的に活動する楽しさを味わわせ、自己肯定感を高めることを目指し、自立活動「レクリエーション大会を企画しよう」を実践した。

### 2 取組の実際

#### (1) 生徒の思いや強みを生かし、主体的に取り組むための手立て

- 3年生にとって、自分たちの学級に下級生が入級してくることは初めての経験である。そこで、協力し合って準備をし、1年生に楽しんでもらう「新入生歓迎レクリエーション大会」を企画しようと投げかけた。競技内容やルールは、自分たちで相談しながら決めるように促した。3年生は、競技内容について、普段行っているビジョントレーニングにつながる要素を取り入れた活動を考えたり、手づくりの新聞棒（写真参照）を準備したりするなど、意欲的に活動していた。
- 用具の操作が難しく、体の動きがぎこちない生徒がいたため、運動の要素を取り入れた活動では、競技の初めに練習する時間を設定することを助言した。生徒たちは、練習を繰り返す中で自己の上達を感じるようになり、嬉しそうに競技に取り組んでいた。
- パソコン操作が得意な生徒の強みを生かし、準備の際に学習専用端末の使用を奨励した。プログラムや得点表づくり、アプリを用いてアンケート作成と集計を次々に行い、意気揚々と準備を進めていた。



【新聞棒の製作の様子】



【使用した用具】

#### (2) 経験を基に、さらに工夫・改善を行う場の工夫

- 「新入生歓迎レクリエーション大会」後に、知的障害特別支援学級の生徒を招待する「交流レクリエーション大会」を計画した。その際、振り返りの場を設け、前回の会でうまくできなかったことに改善策を考えさせたところ、競技では、個人やペアで、達成回数の合計を競うものが多く工夫されていた。それにより、普段の数学の授業では計算を嫌がる知的障害特別支援学級の生徒も、進んで計算する姿が見られた。
- 「交流レクリエーション大会」は、参加人数が増えたため、生徒たちはとても緊張した様子だったが、前回の経験を基に、何も見ずに説明したり、BGMを流したりするなど、自分たちで工夫・改善しながら実践し、楽しむことができた。
- 上級生が下級生の手助けをしながら準備を進めることができるように、準備チームのメンバー構成を工夫した。このことにより、3年生が1年生のサポートをしながら準備を進める姿が見られた。



【準備に取り組む様子】

	Aチーム	Bチーム
数字探し	1点	2点
ゴロ卓球	1点	2点
新聞棒キャッチ	2点	1点
新聞棒回し	1点	2点
カップキャッチ	2点	1点
合計	7点	8点

【得点表】



【新聞棒回し】

#### (3) 自己肯定感を高める場の工夫

- 「交流レクリエーション大会」について、知的障害特別支援学級の生徒に感想を書いてもらう場を設定した。感想用紙には、「どの競技もおもしろかった」「説明の仕方が分かりやすかった」「次もまたやりたい」という内容が書かれていた。高評価をもらった生徒たちは、「ほっとした」「よかったなあ」「うれしい」「先生、またやらせてください」などの言葉を素直に口にし、満面の笑みを浮かべていた。

### 3 終わりに

「交流レクリエーション大会」後の生徒アンケートには、「自信が付いた」「団結力が高まった」という回答が多くみられた。今回の自立活動は、生徒にとって、自信につながる活動となったようである。今後も主体的に取り組むことのできる経験を積み重ね、自己肯定感を高めていきたい。

# 自分に合った学び方を獲得していくための教材と支援

上市町の小学校

## 1 はじめに

本校の通級指導教室では1年生から6年生までの子供が学んでいる。子供一人一人の実態を確実に把握し、子供にとって最適な学びができるように、担任との情報交換を丁寧に行い、よりよい支援につながるように努めている。4年生のA児は、集中して課題に取り組むことや漢字の形を正しく捉えることが難しいため、漢字の読み書きが苦手である。子供が見通しをもって取り組めるように活動内容を提示すること、子供の困難さに応じた教材の工夫をすることにより、A児は心が安定した状態で集中して課題に取り組み、自分に合った学び方を獲得していくことができると考えた。ここでは、自立活動「やればできる！チャレンジ漢字 いい感じ！」の実践を紹介する。

## 2 取組の実際

### (1) 心の安定を図り、集中して課題に取り組むための導入の工夫

学習活動の流れを提示することで、活動に見通しをもち、主体的に学習に参加できると考えた。また、課題が終わる度にマークを貼ることで、落ち着いてトレーニングに参加できると考えた。導入として、楽しい課題である目と手の協応トレーニング(ぐるぐる迷路、見くらべレース等)を行うことで、学習への意欲付けとなり、漢字学習へスムーズに入ることができた。また、心の安定が図られ、集中して取り組むことにつながった。そして、点をつないで漢字をつくるプリントや【漢字読み書き線結び】等の活動を通して、苦手な漢字学習に落ち着いて取り組むことができた。毎回同じ活動を繰り返し行うことで見通しをもち、抵抗感なくメインの活動に入っていくことができた。そして、漢字への興味・関心が高まり、学習中に「漢字学習は楽しい」「もっと丁寧に漢字を書きたい」「漢字をもっと覚えたい」などつぶやくようになった。

学習活動の流れ	
1	学習の見通しとめあて
2	目と手の協応 トレーニング
3	漢字トレーニング
4	確認問題にチャレンジ
5	学習の振り返り

4年生の漢字復習(書き)パート1	
①じしん	・発達
②はったつ	・自信
③ひこう機	・飛行機
④座せき	・建国
⑤けんこく	・座席

【漢字読み書き線結び】

### (2) 自分に合った学び方を獲得していくための漢字トレーニング

【漢字トレーニング】の課題内容は、①漢字イラストから漢字を完成させる課題、②合体漢字、③部首名と漢字の完成及び読み仮名の課題と確認、④漢字の神経衰弱ゲームの4つである。これらの活動が、漢字の読み書きへの意欲付けと漢字を記憶する方法を獲得することにつながると考えた。また、学習中は漢字カードや漢字一覧表等のツールを手元に置いて活用できるようにすることで、子供が安心して漢字学習に取り組めるように配慮した。

漢字トレーニング	
①○かんをおす	
	印 するし、いん
②○がでる	
	熱 ねつ

【漢字イラストから書く】

漢字イラストを活用することは、A児が漢字の輪郭を意識することにつながった。また、合体漢字を活用することで、漢字を分解して形をとらえ、漢字の形への認知を高める効果が見られてきた。さらに、へんやつくりを色分けする、漢字のはね・はらい・とめが意識できるように間違いやすい箇所の色分けの△マークを貼るなど視覚的な手掛かりを工夫したことで、漢字を覚えることや漢字を丁寧に書くことにつながった。

合体漢字問題	
①ロ+未 = 味	(はらう)
②イ+系 = 係	(かひり)
③重+心 = 墨	(くろ)

【合体漢字】

また、子供がトランプ遊び感覚で楽しめる漢字神経衰弱ゲームの活動を取り入れたことで、集中して取り組むことができ、より多くの漢字を覚えることにつながった。カードに書かれている漢字の読み仮名を読む活動を併せて行ったことにより、漢字を読むことへの抵抗感が少なくなった。

あん	あん	かい	かい
安	安	界	界

【漢字神経衰弱カード】

## 3 終わりに

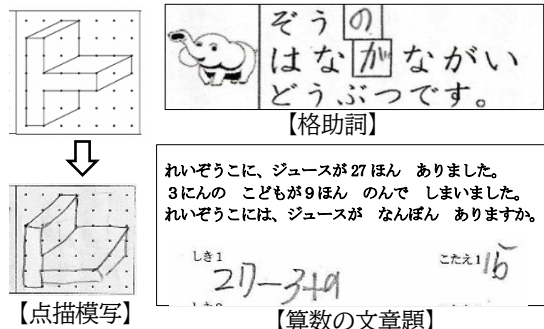
漢字の読み書きに苦手さを感じているA児が、実態に応じて設定された様々な活動を通して、漢字への抵抗感を減らし、「漢字学習をしたい」とつぶやくなど意欲を高めることができた。また、家庭でも通級による指導で使用した教材を活用しながら漢字学習をしたり、在籍学級において漢字を楽しんで学習したりする姿が見られるようになってきた。今後も子供が安心して学習に取り組む中で自分に合った学び方を獲得していけるように、丁寧な実態把握に基づいた家庭学習でも活用できる支援ツールや教材づくりを目指したい。そして、A児に関わる教員と、児童の実態に合う教材の活用や支援の在り方を共有していきたい。

# 高校の通級を担当して —高等学校における通級による指導の取組—

## 1 はじめに（実態把握）

高校で行う通級による指導は軽度の発達障害者が対象だろうと考えていました。しかし、実際には行動面や情緒面で大きな困難のある生徒や心身症や精神疾患の生徒もいます。通級による指導を受ける生徒にはいくつかの設問に答えてもらい実態把握を行っていますが、時間がかかる場合もあります。

《発達障害のある生徒の回答》



【格助詞】

【算数の文章題】

[nakao.yu-nagi.com/index.html](http://nakao.yu-nagi.com/index.html) から

## 2 授業の導入

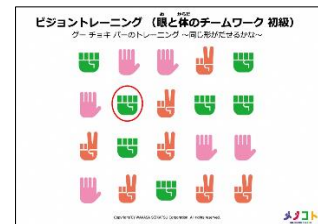
授業は個別で実施し、電子教材も使用しています。

ゲーム感覚で取り組みやすい教材を電子化して、集中して取り組める工夫をしています。右図は、もともとビジョントレーニングに使用するジャンケン表です。これを1秒間隔でランダムにグー・チョキ・パーを「○」で囲む30秒のビデオに編集しました。3回再生し、最初は画面と同じ手の動きを、次はジャンケンに勝つ動きを、最後はジャンケンに負ける動きをします。集中しないと手が動きません。

また、スムーズに話すことが苦手な生徒もいるので、YouTubeにアップされている「外郎（ういろう）売り」も使用しています。これも台詞のスピードについていくには集中が必要です。

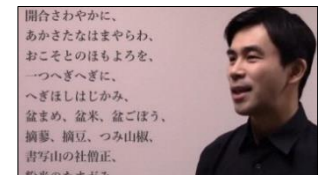
その他、反転図形・多義図形、マッチ棒クイズや間違い探しクイズ等も電子化して使用しています。

《導入時の教材》



【じゃんけん表】

[menokoto365.jp/3745/](http://menokoto365.jp/3745/) から



【西村俊彦さんの外郎売り】

[youtube.com/watch?v=HQkXMaaJ31U](https://youtube.com/watch?v=HQkXMaaJ31U) から

## 3 授業の展開

対人関係で悩んでいる生徒が多く、これは障害や病状に関わりなく共通しています。自閉スペクトラム症やADHD（注意欠陥多動性障害）の生徒にはSST（ソーシャルスキルトレーニング）教材を使用しています。心身症、精神疾患の生徒は、ストレス耐性を高めるために、ボックス・ブレスリング（注：ストレスを和らげる呼吸法）を行っています。

また、物事に対して、思い込みや一面的な解釈に捕らわれていることがあり、こうした捉え方を変えることができればメンタルへの負担は軽減されるので、リフレーミングを中心とした授業をしています。

《指導教材》



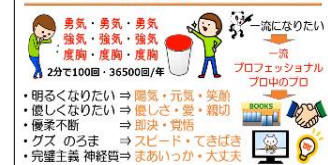
【SST】「ことばと発達学習室M」から

## 4 卒業後の進路

学校には、行動面や情緒面、教科学習で大きな困難のある生徒もいます。こうした生徒の障害特性や病状が、高校在学中で劇的に変化することはありませんが、本人・保護者の正しい障害受容を支援していくことで、本人の特性に合った将来を考えていくことができます。障害者手帳を取得して、障害者枠で就労することがよい生徒もいます。また、「就労移行支援事業所」や「障害者就業・生活支援センター」を利用して、自分に合った職業に就くことができた生徒もいます。生徒一人一人が、自分に合った進路を選択できるよう支援していきたいと思っています。

（県東部高等学校通級指導教室担当）

言葉のくり返しの具体例



【リフレーミング】

<https://www.youtube.com/watch?v=hcrVltLApnA&t=15s> から

高等学校の通級による指導は、平成30年度から開始され、現在は次の4校に設置されています。  
 新川みどり野高校 雄峰高校 志貴野高校 となみ野高校

令和4年3月

# 富山県特別支援教育将来構想

～新しい令和の時代に目指す姿と実現に向けた取組～



富山県特別  
支援教育  
将来構想  
QRコード

が策定されました！

令和の時代において、特別な教育的支援が必要な子供や保護者を社会全体で支え、一人一人が輝き社会で活躍できるための、富山県における**特別支援教育の目指す姿**とその**実現に向けた取組**について子供を真ん中においた視点から整理したものです。

将来構想における6つの視点と「目指す姿」

子供たちからの意見

## I 共生社会の実現に向けた連続性のある多様な学びの場の整備

- ・ 共生社会の実現に向けた特別支援教育の理解啓発
- ・ 教育的ニーズに最も的確に応える多様な学びの場の整備・充実
- ・ 児童生徒等の状況に応じた、全ての学校での体制整備

「いろいろなことを学べること、ほめられることが、うれしい」「友達と一緒にいること、遊ぶこと、話すこと、勉強することが、楽しい」

## II 学校、家庭、地域、医療・福祉・保健・労働等の関係機関の連携強化

- ・ 関係者の支援情報の共有と連携した支援の充実
- ・ 就学前から卒業後までの適切な支援の引継ぎ
- ・ 地域と連携した、キャリア教育や生涯学習の充実

「美術での水彩画が楽しくて、家でもやってみた」「習った事柄を生かした勉強が、進学先でとても役に立った」

## III 多様な教育的ニーズに対応できる教員の専門性向上

- ・ 教員の経験や役割に応じた、十分な専門性の担保
- ・ 専門家の活用による指導力の向上
- ・ 専門性向上のための、調査・研究や研修体制の充実

「個別学習で、分かるように教えてもらえることが、楽しい」「生活していくため、できることを増やせるように教えてほしい」

## IV ICTや専門家の活用等による指導の充実

- ・ 合理的配慮の提供や安全で効果的な指導の実施
- ・ 個別最適な学びのための指導や指導の計画・評価
- ・ 一人一人の障害の状態に応じた指導の実施

「タブレット端末を使った意見交換が、おもしろかった」「視線入力を使ってパソコンで勉強したい」

## V 企業と学校、家庭が一体となった就労支援

- ・ 希望や進路、社会状況を踏まえた教育課程・職業実習の改善
- ・ 多様な就労による、一人一人のやりがいと活躍の場の創出
- ・ 高等特別支援学校を中心とした、就労支援体制の充実

「人の役に立つ仕事をした」「自分にあった仕事をした」「コミュニケーションのとりやすい会社で働きたい」

## VI 特別支援学校の施設設備等、教育環境の整備

- ・ 安全・安心のための施設設備等の整備
- ・ 個別最適な学びのための施設設備の整備
- ・ 新しい技術の活用による指導の質と業務の効率の向上

「校舎をきれいにしてほしい」「落ち着くための部屋があればよい」「先生と、もっと運動したり、遊んだり、話したりしたい」

「目指す姿」の実現に向けた具体的な取組等、全ページは上のQRコードで見ることができます。是非ご覧ください。

特別支援教育に携わるそれぞれの立場から、一緒に実現していきましょう！

この資料では、UDフォント（ユニバーサルデザインフォント）を標準として使用しています。

使ってみましたか？

## 先生が気づいて動けるチェックリスト



令和4年度、富山県において特別支援学級に在籍する子供は2,000人を超え、通級による指導を受けている子供は3,000人を超えました。

このような中で先生方は、支援の必要な子供たちへの対応や支援に苦慮されていることと思います。

そこで、このチェックリストが活躍します。

教員経験の年数の少ない先生や特別支援教育に詳しくない先生方も、自分で気づいて、支援の方法のヒントを得て、自分で動けるためのツールとして活用していただけます。

チェックリストを活用した先生方の感じている **メリット** は？

実態を多面的に把握でき、気づいていなかったことに気づける。学習面・行動面・社会性等



気がかりな点を焦点化できる。

※特別支援教育コーディネーター連絡会議でのアンケートより

こんなふうに**活用**しています！

☆年度ごとや学期ごとにチェックをして子供の変容を確認し、支援の見直しを図っている。

☆「特別支援教育学びQ&A」と併せて活用することで、具体的な支援方法を考え、実践に生かしている。

☆個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する時の実態把握に活用している。

### 活用のメリット

- 1 子供の困難や特性を捉え、教育的ニーズを把握することができる
- 2 子供が安心できる環境を早期に整えることができる
- 3 本人の強みを意識した指導・支援の方向や内容が明確になる
- 4 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に役立つ
- 5 教師の子供を見る際の視点が確立され、指導・支援のスキルアップにつながる
- 6 時間に余裕が生まれ、授業や学級経営の充実につながる

まずは、**たった5分!**

**この1枚**をチェック  
してみましょう!

利用しない手はない!



- ◆ 小学校編
- ◆ 中学校・高等学校編
- ◆ 就学時健康診断
- ◆ 年長児編



学校生活チェックリスト（小学校編）

学年・組	氏名	記入者	記入日
------	----	-----	-----

回答欄：よくある…○、ときどきある…△、ない…無記入

質問項目	回答欄	領域
1 通学中に、興味のある物を見付けると（集団登校の列からはずれ）見に行く。		B
2 日直等係の仕事を最後までやり遂げられない。		B
3 時間割変更や活動の手順の変更があると、怒ったり対応できなかったりする。		F
4 忘れ物をしたり、机の中が整理できなかったりする。		B
5 手足をそわそわ動かしたり、体を絶えず揺すったりする。		C
6 教師の質問が終わらないうちに答えたり、指名されていないのに回答したりする。		C
7 球技等をすると、仲間と協力できない。		D
8 授業内容と関係のない質問をする。		E
9 聞いた内容を覚えていない。		A

<実施手順>

**質問項目をチェック**  
○、△、無記入の3段階で回答  
複数人でチェック  
→より実態が捉えやすい

○と△の数を記入

**教育的対応を検討**  
○や△が多く付いた領域(A～G)は、  
**支援が必要＝本人は困っている!**  
と捉えてください。

	Ⅰ学習面		Ⅱ行動面		Ⅲ社会性		
	A学習面	B不注意	C多動性・衝動性	D人とのかわり	Eコミュニケーション	F興味・こだわり	G感覚の過敏性
△の数	11	4	3	4	3	3	2
○の数	11	4	3	4	3	3	2

支援を考えるときには、これ!  
**学びQ&A**

本人に必要な支援をはじめましょう

**Q23 授業中に周囲の友達にちょっかいをかける**

プリント等の一人で行う課題が始まると、少しは取り組みますが、隣や前後の席の友達に話しかけてしまいます。そばで声をかけると一瞬は取り組みますが、またすぐにちょっかいをかけてしまいます。

**Q23**



**気になるKさん**

★領域A(学習面)に○が多い  
★特に気になるのがC領域の項目5：体を絶えず揺すっている。  
項目29：清掃中等に周りの友達にちょっかいをかける。

◆実態把握（観察のポイント）

- ・集中してできることは何か、集中できる時間はどれだけか。
- ・日頃から授業中にもじもじ、そわそわすることが多いか。
- ・学習内容の習熟状況はどうか。

◆推測できるつまずきの要因

- A 気が散りやすい。
- B じっとしていることが苦手である。
- C 課題の内容が分からない。

◆指導・支援の例

**Aへの対応**

短時間でも集中できるように課題の取り組ませ方を工夫する。

- ・黒板周りや壁面、教室の外からの不必要な視覚・聴覚刺激を排除する。
- ・取り組むことをメモで渡したり、「先生が教室を一回りして、見に来るまでに」

具体的な支援まで  
たどり着けます!

**活用の留意点**

- ★このチェックリストは、教師が実態把握や支援に活用するものです。
- 障害の有無を判断するためや利用機関への受診を促すためのものではありません。
- 子供が自己チェック等のために用いるものではありません。

## みんなで 手話を知ろう 手話を学ぼう

手話は、ろう者がその意思や感情等を手や指の動き、表情等により視覚的に表現する言語です。手話が聴覚障害のある人とならない人をつなぐ架け橋となるように、学校においても手話及び手話言語条例の普及を進めています。

手話使用者の講師の派遣を行っています。市町村教育委員会へお問い合わせください。

### 「手話に親しんで」

本学級では、コロナ禍であっても楽しく豊かに表現しながら歌ってほしいと考え、手話を使った「切手のない贈り物」に取り組みました。1年生の子供たちが歌詞の意味をイメージしやすいように、『愛する』は、みんなが頭をなでてもらうみたいに、『ゲー』の形にした手を反対の手でなでるようにするんだよ」と、言葉と手話をつなげながら説明しました。毎朝の歌の時間に練習を繰り返す中で、子供たちからは、「なんだか『いい子』って、自分が頭をなでてもらっているみたい」「だから、大事そうになでるといいよね」という声が聞かれはじめ、動作に気持ちを乗せ、楽しみながら歌詞を表現することができるようになりました。

この活動を通して、子供たちは、「6年生を送る会」で、今までの感謝の気持ちを手話で伝えたいという思いを高めていきました。そして、「切手のない贈り物」の歌詞が、感謝の気持ちを伝えるためにぴったりだと考え、この歌を発表することにしました。子供たちは、「たくさん遊んでくれた」や「学校を支えてくれた」といった歌詞を付け加え、手話も自分たちで工夫しました。本番では、6年生に対する感謝の思いを全身で表現する、「手話コーラス」を発表することができました。これからも手話を特別なものとして捉えるのではなく、思いを表現する一つの方法として、子供たちが親しんでくれることを願っています。

砺波市の小学校1年生



【朝の歌で手話に親しむ子供たち】



【6年生を送る会】に向けて練習に励む様子】

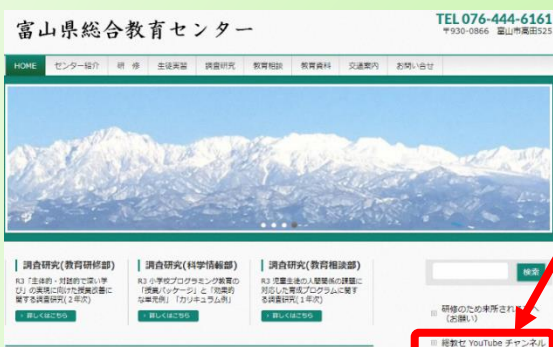
## 特別支援教育 研修コンテンツ配信

先生方の特別支援教育に関する指導力の向上と指導の充実を図るために、YouTube チャンネルにて研修コンテンツを配信しています。

📍 時間のあるときに、どなたでも、視聴することができます。

📍 1コンテンツ 10~20分です。

📍 学校内で研修として視聴することができます。



📍 富山県総合教育センターウェブページ (<http://center.tym.ed.jp/>) から、YouTube チャンネルにアクセスできます。



「発達障害って？」	「インクルーシブ教育システムの推進とは？」	「特別支援教育コーディネーターの役割とは？」	「個別の教育支援計画とは？」 (仮)
「通級指導教室の役割と指導の実際」 (仮)	「特別支援教育における連携について」 (仮)	「医療的ケアの必要な児童生徒の学校生活について」 (仮)	「気になる子どもの理解と対応 (幼・保)」 (仮)
「気になる子どもの理解と対応 (小・中)」 (仮)	「気になる子どもの理解と対応 (高等学校)」 (仮)	※コンテンツは順次アップロードしていきます。	